

藥林輯要類編

趙启益編著

福建省衛生局中西醫結合辦公室
廈門市醫藥研究所



辨 类 要 辑 林 药

江苏工业学院图书馆
藏书章

福建省卫生局中西医结合办公室
厦门市医药研究所

一九七九年六月

前 言

辨证施治是祖国医学诊治疾病最基本的原则；熟悉药理，学会正确随证遣药，是辨证施治过程中的一个重要环节。初学中药者，每因药味众多，对药物之效用常感零乱难于记忆。尤其对功效类似的药物，更易混淆不清，造成临证用药茫无头绪。针对这个问题，作者于西医学习中医班任教期间，特编写教学讲义，帮助学员系统复习，便于学员能更快的掌握常用中药的药理与应用。自1973年写成初稿，迄今已供七届西医学习中医班学习使用。为了适应当前全国西医学习中医的需要，根据多次教学实践获得之体会，并吸取学员提出的宝贵意见，加以增删修订成本书，以供广大西医学习中医参考，也可供医学院校学生及临床医务人员温习中药学参考。

本书内容说明：

1. 总论部分重点概述临床用药应掌握的几个要领。
2. 各论凡17章，共收集常用中药260种。以“表格”式表明药物之性味及其功效异同点。“临床应用”着重阐明每类药中各药之功效及用途专长；对功用类似的药物，均加以比较其异同，并指出临床上应如何鉴别使用。务使读者能够根据辨证要求，合理选药。
3. 关于药物剂量，均指成人每日一剂常用量。除剧毒药外，临证应用时，可视患者年龄、体质、病情轻重缓急等具体情况，予以增减，不必拘泥，以免影响疗效。

4.有关药物使用禁忌，系指单味独用时而言，比较重要的，在陈述其临床应用时附带说明。一般禁忌，则于每一类药概说“注意事项”内重点提及，不一一赘述。

由于本人水平有限，书中一定存在许多缺点和错误，欢迎广大读者提出批评指正。

赵启益

1979年6月

目 录

总 论

临证用药应掌握的几个要领·····	(1)
一、运用中药的基本规律·····	(1)
二、中药的性能·····	(1)
(一)四气五味·····	(1)
(二)升降浮沉·····	(3)
(三)归经·····	(4)
三、配伍·····	(5)
四、用药禁忌·····	(5)
五、剂量·····	(6)
六、炮制·····	(7)

各 论

第一章 解表药·····	(9)
辛温解表药·····	(10)
麻黄·····	(11)
桂枝·····	(11)
细辛·····	(11)
香薷·····	(11)
紫苏(附：紫苏梗)·····	(11)

荆芥·····	(12)
防风·····	(12)
生姜(附: 生姜皮)·····	(12)
白芷·····	(12)
藁本·····	(12)
辛夷·····	(12)
胡荽·····	(13)
辛凉解表药·····	(13)
薄荷·····	(13)
豆豉·····	(14)
桑叶·····	(14)
菊花·····	(14)
牛蒡子·····	(14)
蝉蜕·····	(14)
蔓荆子·····	(14)
葛根·····	(15)
升麻·····	(15)
柴胡·····	(15)
第二章 化痰止咳药 ·····	(16)
温化寒痰药·····	(17)
半夏·····	(17)
白芥子·····	(17)
旋复花·····	(18)
桔梗·····	(18)
清化痰热药·····	(18)
前胡·····	(19)

瓜蒌	(19)
贝母	(19)
天竹黄	(19)
竹茹	(20)
葶苈子	(20)
海藻	(20)
昆布	(20)
止咳平喘药	(20)
杏仁(附: 甘杏仁)	(21)
苏子	(21)
紫苑	(21)
款冬花	(21)
百部	(21)
枇杷叶	(21)
桑白皮	(21)
第三章 清热药	(22)
清热泻火药	(23)
石膏	(23)
知母	(23)
栀子	(24)
竹叶	(24)
芦根(附: 苇茎)	(24)
夏枯草	(24)
决明子	(24)
谷精草	(24)
青箱子	(24)

清热凉血药	(25)
犀角	(26)
生地黄	(26)
玄参	(26)
牡丹皮	(26)
赤芍药	(26)
地骨皮	(26)
清热燥湿药	(27)
黄芩	(27)
黄连	(27)
黄柏	(27)
龙胆草	(28)
秦皮	(28)
清热解毒药	(29)
金银花(附:忍冬藤)	(29)
连翘	(29)
大青叶(附:板蓝根)	(30)
紫花地丁	(30)
蒲公英	(3)
白头翁	(30)
鸦胆子	(30)
山豆根	(31)
射干	(31)
马勃	(31)
鱼腥草	(31)
第四章 泻下药	(32)

润下药·····	(33)
火麻仁·····	(33)
郁李仁·····	(34)
攻下药·····	(34)
大黄·····	(34)
芒硝 (附: 元明粉) ·····	(34)
峻下逐水药·····	(34)
甘遂·····	(34)
芫花·····	(34)
大戟·····	(34)
牵牛子·····	(34)
商陆·····	(35)
第五章 消导药 ·····	(36)
神曲·····	(37)
莱菔子·····	(37)
山楂·····	(37)
麦芽·····	(37)
谷芽·····	(37)
鸡内金·····	(37)
第六章 芳香化湿药 ·····	(39)
藿香·····	(40)
佩兰·····	(40)
苍术·····	(40)
厚朴·····	(40)
白豆蔻·····	(40)
砂仁·····	(40)

第七章 利水渗湿药	(41)
茯苓(附:赤茯苓、茯苓皮、茯神).....	(43)
猪苓.....	(43)
薏苡仁.....	(43)
冬瓜仁.....	(43)
防己.....	(43)
茵陈蒿.....	(44)
泽泻.....	(44)
车前子(附:车前草).....	(44)
滑石.....	(44)
木通.....	(44)
通草.....	(44)
瞿麦.....	(45)
草薢.....	(45)
篇蓄.....	(45)
金钱草.....	(45)
海金沙.....	(45)
第八章 祛风湿药	(46)
羌活.....	(47)
独活.....	(47)
威灵仙.....	(48)
苍耳子.....	(48)
五加皮.....	(48)
秦艽.....	(48)
桑枝.....	(48)
第九章 温里药	(49)

附子(附:乌头).....	(50)
干姜(附:炮姜).....	(50)
肉桂.....	(51)
吴茱萸.....	(51)
小茴香.....	(51)
花椒(附:椒目).....	(51)
高良姜.....	(51)
第十章 理气药	(52)
陈皮(附:桔红、桔核、桔络、桔叶).....	(54)
枳实(附:枳壳).....	(54)
木香.....	(54)
薤白.....	(55)
青皮.....	(55)
香附.....	(55)
乌药.....	(55)
苦楝子.....	(55)
大腹皮.....	(55)
柿蒂.....	(55)
沉香.....	(55)
第十一章 理血药	(57)
止血药.....	(57)
仙鹤草.....	(59)
紫珠草.....	(59)
白芨.....	(59)
藕节.....	(59)
大蓟.....	(59)

小蓟	(59)
地榆	(59)
槐花 (附: 槐角)	(60)
茜草根	(60)
侧柏叶	(60)
茅根 (附: 茅花)	(60)
三七	(60)
蒲黄	(61)
艾叶	(61)
活血药	(61)
川芎	(64)
丹参	(64)
益母草 (附: 茺蔚子)	(64)
桃仁	(64)
红花 (附: 藏红花)	(64)
牛膝	(65)
乳香	(65)
没药	(65)
郁金	(65)
延胡索	(66)
五灵脂	(66)
三棱	(66)
莪术	(66)
第十二章 补益药	(67)
补气药	(68)
人参	(68)

党参（附：明党参）	（68）
太子参	（68）
黄芪	（69）
白术	（69）
山药	（69）
扁豆（附：扁豆衣、扁豆花）	（70）
甘草	（70）
大枣	（70）
补阳药	（71）
肉苁蓉	（72）
巴戟天	（72）
淫羊藿	（72）
补骨脂	（72）
益智仁	（72）
杜仲	（72）
续断	（72）
狗脊	（72）
菟丝子	（73）
沙苑蒺藜	（73）
补血药	（73）
熟地黄	（74）
何首乌	（74）
白芍	（74）
阿胶	（74）
当归	（75）
补阴药	（75）

西洋参	(76)
沙参	(76)
玉竹	(76)
麦门冬	(76)
天门冬	(76)
石斛	(77)
枸杞	(77)
女贞子	(77)
旱莲草	(77)
龟板 (附: 龟板胶)	(77)
鳖甲	(77)
第十三章 平肝息风药	(78)
石决明	(79)
代赭石	(79)
羚羊角	(80)
钩藤	(80)
地龙干	(80)
僵蚕	(80)
全蝎	(80)
蜈蚣	(80)
天麻	(80)
第十四章 安神药	(82)
朱砂	(83)
琥珀	(83)
龙骨 (附: 龙齿)	(84)
牡蛎	(84)

酸枣仁.....	(84)
柏子仁.....	(84)
远志.....	(84)
第十五章 芳香开窍药.....	(85)
麝香.....	(86)
冰片.....	(86)
石菖蒲(附:川菖蒲).....	(86)
第十六章 收涩药.....	(87)
麻黄根.....	(88)
浮小麦.....	(88)
诃子.....	(89)
肉豆蔻.....	(89)
山茱萸.....	(89)
芡实.....	(89)
莲子.....	(89)
金樱子.....	(89)
桑螵蛸.....	(89)
海螵蛸.....	(89)
乌梅.....	(89)
五味子.....	(89)
银杏.....	(89)
第十七章 驱虫药.....	(90)
使君子.....	(91)
苦楝皮.....	(91)
贯众.....	(91)
槟榔.....	(92)

总 论

临证用药应掌握的几个要领

一、运用中药的基本规律

人体在正常生理状态下，阴阳是保持相对平衡的。如果由于外因或内因的影响，使阴阳偏胜，便要产生各种病变，甚至阴阳失去依存而导致死亡。运用中药的基本规律，就是要利用药物的偏胜，调整改善人体阴阳的胜衰，使之恢复原来相对平衡的状态。故具体用药时，如热证用寒药，寒证用热药，虚证用补药，实证用泻药，上逆者用降逆药，下陷者用升提药等，无不贯穿着上述所说的用药基本规律。

二、中药的性能

运用中药治病，必须掌握中药的性能。所谓中药的性能，就是中药的药性和功能。每种药物都具有一定的性能，概括可以从四气五味、升降浮沉、归经等方面来认识。对于这些性能的认识，是中医在长期医疗实践中，从众多药物的各种医疗作用总结出来的，分述如下：

（一）四气五味

四气五味是中药性能的最主要内容。

四气就是指寒、热、温、凉四种不同的药性，故又称四

性。这四种不同的药性，都是以药物的疗效来确定。即能治寒证的药物，性属温热；能治热证的药物，性属寒凉。例如：干姜、附子能祛寒温里，可用于治疗寒证，便知它们性属温热；黄连、石膏能清热泻火，可用于治疗热证，便知它们性属寒凉。

四气实质上只有寒凉与温热对立的两个方面。至于寒和凉，温和热，则仅是程度上的不同，而没有本质上的区别。凉次于寒，温次于热。凉相当于微寒，大温相当于热。此外，有一些药物，偏胜之气不著，既非寒凉，又非温热，则称为平性药。但实质上仍有略偏于凉或偏于热之别，故虽有平性之名，而一般仍称为四气。

五味就是指辛、甘、酸、苦、咸五种不同的药物味道。五味是利用味觉尝试辨别出来的。前人还体会到不同的药味各有不同的作用，而味相同的药物，其作用又有共同之处，归纳如下：

辛能散、能行——凡辛味的药物多能发散、行气。

甘能补、能缓——凡甘味的药物多能补养、缓和药性。

酸能收、能涩——凡酸味的药物多能收敛、固涩。

苦能燥、能泄——凡苦味的药物多都燥湿、降泄。

咸能软、能下——凡咸味的药物多能软坚、润下。

还有一种味道不显著的药物，称为淡味药，如茯苓、通草等，多能渗湿利水。但因前人有“淡附于甘”的说法，习惯上往往甘淡并称，故虽有淡味之称，但一般仍把它概括在五味之内，总称五味。

由于每种药物，都具有气和味，故四气五味是药物性能不可分割的整体。研究药物的性能，必须把气与味结合起来